

農作物技術情報 第6号 花き

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 ほ場が乾燥する前にかん水しましょう。
適期収穫と出荷選別を徹底しましょう。
台風等による強風に備え、ネットと支柱を点検、補強しましょう。
- ◆ りんどう 花腐菌核病、黒斑病、オオタバコガ等病害虫の適期防除を行いましょう。
定植ほ場や収穫後のほ場も病害虫防除を継続しましょう。
- ◆ 小 ぎ く 白さび病、オオタバコガ、ハダニ類等病害虫防除を徹底しましょう。
収穫後管理を適切に行い、健全な伏せ込み苗・株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

盆需要期向けの早生種は、概ね需要期に出荷となりました。また、中生種、晩生種の開花が始まっています。病害虫では、黒斑病やオオタバコガ、ハダニ類の発生が増加しています。また、葉枯病、アザミウマ類、リンドウホソハマキの発生がみられています。

2 栽培管理

（１） かん水・排水対策

高温が続いていますので、ほ場が過度に乾燥しないよう通路かん水を行います。ただし、高温時に長時間滞水すると根が弱り、株に障害が発生する場合がありますので、かん水の時間帯に注意します。

また、大雨に備え水路などからの流入水を防ぐため、畦畔の補強、水路の泥やごみの除去を行います。ほ場が冠水した場合は、排水路に水が流れやすくなるよう溝切りをして速やかに排水します。

（２） ネット管理

茎が曲がらないよう随時ネットの位置を調整します。併せて、今後の台風等による強風に備え、ネットと支柱を点検し補強します。

（３） 収穫・調製

収穫前に各地域の目揃会等で出荷規格を確認し、それに応じた選別、調製を行い出荷します。特に、適切な開花状態（切り前）で出荷できるよう収穫遅れに注意し適期に収穫します。

収穫時は、出荷規格に合わせ、折り取る切り花の長さを調節します。株養成を充実させるため、下葉ができるだけ多く残るように収穫します。下葉を 50 cm 以上残して収穫する場合は、株養成用の茎を残さずに全茎を収穫します。

(4) 残花処理

病虫害防除等を目的として、収穫が終わったほ場の花蕾の着いている部分の茎を折り取り、ほ場外で処分します。この作業は、花腐菌核病やオオタバコガ、アブラムシ類、アザミウマ類の防除に特に有効です。

3 病虫害防除

(1) 花腐菌核病

夏の暑さを経過して気温が低下すると、ほ場に病原菌の子実体(きのこ)が発生し(写真1)、胞子が花蕾に付着して感染します。また、冷涼地ほど早く発生する特徴があります。青花や紫花品種は感染すると花弁が鮮やかなピンク色に変色しますが(写真2)、桃花や白花品種では淡褐色となり、花色によって病斑の色が異なります。

今年は気温が高く、まだ子実体の発生は確認されていませんが、平年の防除開始時期は、県北部及び山間地域で8月第5～6半旬、県中部以南の平坦地で9月第1～2半旬となります。今後、各地域の農業改良普及センターの情報等を参考に防除を開始します。併せて、感染・伝染源となる残花の除去を徹底します。



写真1 株元に形成された子実体(きのこ)
(傘の直径は大きいもので5mm程度)



写真2 花腐菌核病発生花(右側)
(左の無病花と比べてピンク色に変色)

(2) 黒斑病

7月中旬以降発生が増加し、上位葉での発病も確認されています。本病の治療は困難ですので**降雨前の予防散布を継続**します。黒斑病は、着蕾期以降、上位葉、がく片、側芽で発病しやすいので、薬剤散布時は**花蕾部に薬剤が付着するように散布**します(写真3)。

また、収穫が終わったほ場で感染が拡大し、隣接するほ場の感染源となっている事例がみられますので、**収穫後も薬剤散布を継続**します。

黒斑病は草勢が衰え、葉が黄化した株で発生しやすくなります。降雨後に通路が滞水しないよう**排水対策を併せて実施**します。



写真3 上位葉、がく片に発生した黒斑病

(3) 葉枯病

現在、発生は少なく抑えられていますが、秋季にも発生が拡大する場合がありますので、**降雨前の予防散布を継続**します。これから収穫するほ場と合わせ、収穫が終わったほ場や定植ほ場の防除も行います。

(4) オオタバコガ

8月に入り産卵や幼虫による食害が増えています。また、ほ場に収穫されずに残された花の内部で幼虫が確認されています。収穫しない花蕾をほ場に残すことで次世代の発生源となりますので、**花蕾は必ず折り取りほ場外で処分**します（写真4）。

薬剤防除については、一般に老齢幼虫には防除効果が劣るため、発生初期に有効薬剤を散布します。オオタバコガは花蕾部に多く産卵しますので、**花蕾部に薬剤が付着するように散布**します（写真5）。



写真4 オオタバコガの食害痕



写真5 花弁に産卵されたオオタバコガの卵

(5) ハダニ類

発生が継続しています。今後も高温傾向で推移した場合、例年よりも遅い時期まで発生する可能性があります。**発生状況によっては追加散布を検討**しますが、同一系統薬剤は年1回の使用を基本とします。

ハダニ類に薬剤が付着しなければ薬剤の効果が得られませんので、**葉裏にしっかり薬剤がかかるよう、動力噴霧器の圧力を高めにして丁寧に散布**します。

小ぎく

1 生育概況

8月咲き品種は、概ね盆需要期に出荷となりました。9月咲き品種は着蕾が始まっており、生育は平年並みとなっています。病虫害では、オオタバコガ、白さび病の発生が増えています。また、ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類の発生が継続してみられています。

2 栽培管理

(1) かん水・排水対策

気温が高い状況が続いています。**乾燥が続く場合は茎葉が萎れる前にかん水**します。

湿害に弱いため、大雨後は排水対策が重要です。**ほ場内が冠水した場合は、溝切り等によって速やかに排水を促します。**

(2) ネット管理

りんどうと同様、茎の曲がりが生じないように、随時フラワーネットの位置を調整します。また、今後の台風等に備え、**ネットと支柱を点検・補強**します。

(3) 収穫・調製

収穫前に各地域の目揃会等で出荷規格を確認し、それに応じた選別、調製を行い出荷します。特に、適切な開花状態（切り前）で出荷できるよう収穫遅れに注意し**適期に収穫**します。気温が高い時期は収穫後の開花が進みやすいので、切り前に注意します。

(4) 収穫後管理

伏せ込みに利用する株は、収穫後に地上部が伸びすぎないように地際5～10cmのところでは刈りをします。その後、速効性の化成肥料を窒素成分量で3kg/10a程度施用します。マルチ栽培では、刈り後にマルチを除去して土寄せし、生育を促すのが基本ですが、除草労力を考慮して実施の可否を決めます。なお、かき芽で伏せ込む場合は、刈り後に発生した側枝に土寄せをして側枝の発根を促します。

3 病虫害防除

(1) 白さび病

7月下旬に降雨が多かったことから、8月に入り発生が増えています。**降雨前の薬剤散布で予防**に努めます。発病後は罹病葉を除去しほ場外に持ち出して処分、治療効果の高い薬剤を散布します。今後気温の低下とともに発病しやすくなります。収穫前のほ場と併せ、収穫後も継続して薬剤散布を行います。

(2) オオタバコガ

各地域で茎頂部や蕾の食害が確認されています。防除のポイントはりんどうと同様ですが、着蕾期以降に発生した場合、中齢以降の幼虫は花蕾に潜り込んで食害していることが多いので、食毒作用のある有効薬剤を選択します（写真6、7）。また、収穫が終わったほ場の**花蕾は必ず折り取りほ場外で処分**します。



写真6 オオタバコガの蕾の食害痕
(内部を食害)



写真7 オオタバコガの花の食害
(筒状花、子房部分)

(3) ハダニ類

8月以降も発生が継続しています。ほ場をよく観察し、発生初期の防除を心がけます。ハダニ類に薬液が付着しなければ薬剤の効果は得られませんので、葉裏にしっかり薬液がかかるよう、**動力噴霧器の圧力を高めにして丁寧に散布**します。

4 伏せ込み床の施肥について

同じハウスで何年も伏せ込みをしている場合、長年の肥料成分の蓄積（塩類集積）によって根が肥料焼けを起こし生育不良となる事例がみられます（写真8）。積極的に土壌診断を行い、**処方箋に基づいた適正施肥**を行います。また、塩類集積が過度に進行している場合は、土壌中の肥料成分を減らす（除塩）ことが必要となりますので、最寄りの農業改良普及センターまで御相談ください。



写真8 塩類集積による伏せ込み株の生育不良
※根の障害により養水分を十分に吸収できず、葉の黄化や生育不良がみられる

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。